



平成30年度 活動報告

砂川市地域おこし協力隊（農作業支援）

村田 大地

6月1日砂川市長から委嘱され 砂川市地域おこし協力隊 （農作業支援）に就任

- ・砂川市で新規就農を目指し、知識、技術の向上、ひいては砂川市の農業の発展に寄与できればとの思いで岩見沢市から砂川市に転居し生活を始めました。
- ・このときはまだ自分自身が将来作りたい作物がハッキリと決まっていなかったため、砂川市内の各農家さんで約1カ月間ずつ研修させていただき、色々な作物の栽培を農作業支援を通じ勉強し、その中から自分の作りたい作物を決めていくことにしました。



6月度は吉野でキュウリを栽培している 河合さんの元で農作業支援を行う！

・砂川市では、「キュウリ」「トマト」「ミニトマト」「玉ネギ」「ミニヒマワリ」が市場で高い評価を受けております。6月はその中でキュウリの栽培を勉強させていただきました。

・キュウリは、市場の価格の変動が激しく投機性のある農産物であること、生育が早く病気などが発生しても早めに処置すれば軌道修正ができるということを教えていただきました。

・河合さんから、農薬には適材適所があり、正しく使用した場合はとても生育に役立ちますが、間違った使い方をすると取り返しのつかないことになるなど、農薬を適切に取り扱うことが非常に重要だということを学びました。



7月度は奥山農園でトマトを メインに農作業支援を行う！

- ・奥山農園では、全部で30名ほどのたくさんの従業員の皆さまが働いていました。
- ・始業前に毎日朝礼が行われ、従業員へ向け各自のやるべきことをしっかり伝え、お互いに作業内容をきちんと共有するため、働く側にとっても作業がしやすく、生産性を向上するという面でとても有効な手段であり、今後自分も参考にしていきたいと思いました。
- ・奥山農園では、「個人としての農家」ではなく「組織としての農家」を学ばせていただきました。



奥山農園では様々な農作物を生産
ミニトマトの種類はなんと17種類！！

- ・奥山農園では、トマトをはじめ様々な農作物を生産しており、ハウスの数も60棟ほどあり、トマトでも「大玉」「中玉」「ミニ」をそれぞれ生産し、出荷先を分ける事で収益を安定させていました。
- ・中でも、ミニトマトに関しては17種類も生産し、販売の方法を工夫して収益を上げる方法を探っていました。



8月度は高橋さんの元で ミニヒマワリの農作業支援を行う！

- ミニヒマワリは、普通のヒマワリの種から栽培方法を工夫して大きくならない用に栽培します。
- 土床にビニールを敷き、ヒマワリの根が伸びないようにし、水をあげる量でひまわりの成長を工夫し栽培します。水をあげる量がもっとも重要で、高橋さんもこの作業だけはパートさん等に任せた事は無く、自分で作業する様です。
- 高橋さんは、購入者の元にミニヒマワリが届いたタイミングで花びらが綺麗に咲き開く様にするため、収穫を4回に分け、つぼみが開きかけたタイミングで収穫します。こだわりぬいたミニヒマワリ作りへの情熱を感じました。
- ミニヒマワリは、種まきから収穫の流れを1年で何度も繰り返すので、1～10までの流れを経験することが出来ました。



9月度は菅原さんの元で 玉ねぎを学ばせていただくはずが災害に直面…

- 9月は地震・台風と災害が続きました。菅原さんは「玉ネギ」「トマト」を生産しており、地震での影響はほとんどありませんでしたが、台風でトマトのビニールハウスが風で煽られて、半数以上のビニールハウスが破けてしまいました。
- 災害の影響もあり、玉ネギの支援はあまりできませんでした。しかし、災害は予想することが基本的にできず、自然相手の出来事なので、農業を行う上で1番のリスクだということを、実感しました。



10月・11月度は寿松木さんの元で 水稻の研修を行う！

- 寿松木さんの元で実際にコンバインに乗り稲刈り作業を支援させていただきました。

- 稲刈りとは、ただ稲を刈るだけでなく、

- 「コンバインで稲を刈る」

- 「刈った稲を乾燥機で乾燥させる」

- 「乾燥させた籾をコンテナに入れる」

- 「籾を出荷施設にダンプで搬入」

ここまでが稲刈りの作業であり、大変忙しいことを学びました。



北海道立農業大学校でトラクターの 基本操作の研修（10月16日～18日）を受講！

- 本研修では3日間にわたりトラクターの研修を受講しました。
- 1日目は、トラクターの過去の事故など安全操作や危険予知活動を学びました。1番印象的だったのは国内の農業事業者のうち年間約360人が亡くなっており、1日1人が亡くなっていることに驚きました。農業機械を扱うには十分に注意しなければならないと再認識できました。
- 2日目は、トラクターの仕組み等の研修を受けました。トラクター等が細部まで見られるように切断加工されていたりしており、普段見ることができないトラクターの内部を見ることができました。
- 3日目は、実際にトラクターに乗り、畑を起こす作業やトレーラーを装着し、けん引の研修を受講しました。GPSによる自動操作のトラクターに乗ることができ、ハンドルを全く操作せずトラクターが旋回することにとっても驚きました。
- 宿泊施設では、他の地域の新規就農希望者や地域おこし協力隊の方々と懇親会等を開き、交流を深めることができました。



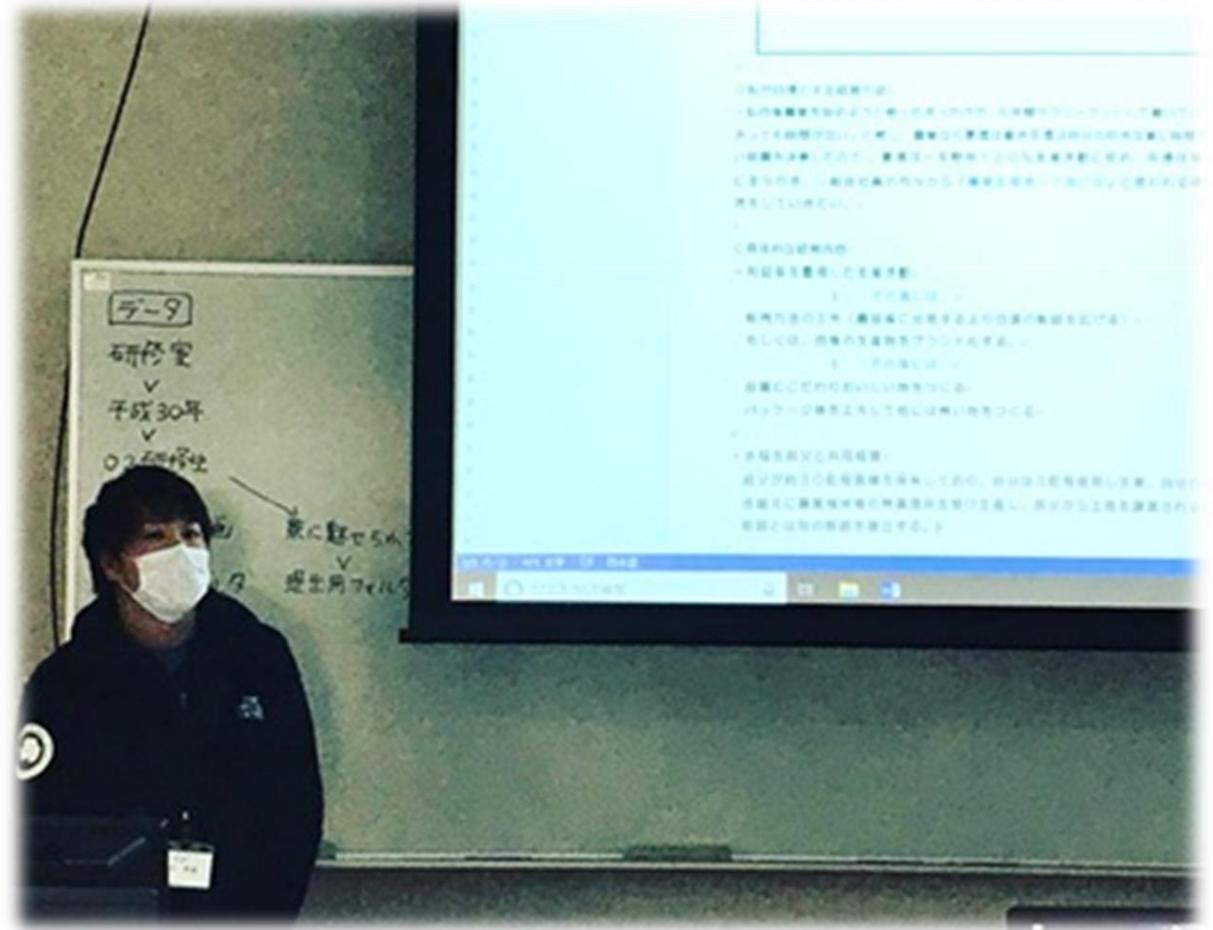
12月度は研修や活動報告書作成！

- 水稲振興会の皆さんとマッセイファーガソン本社とコハタ株式会社の研修会に同行しました。
- マッセイファーガソン本社では、今まで見たことが無いほど大きなトラクターや、最先端のGPS自動操舵の装置など貴重な経験が出来ました。
- コハタ株式会社では、農薬散布用ドローンの基礎知識や今後の普及予想などを学びました。
- 私自身、近く農薬散布用ドローンの免許を取得するのでとても参考になりました。



北海道立農業大学校で新規参入者研修 (1月15日～18日)を受講！

- 本研修では、4日間にわたり農業の研修を受講しました。
- 1日目は、北海道の農業情勢と農家の現状を学びました。北海道農業の食糧自給率の高さに驚き、年々の農家戸数が減少していることは知っていましたが、その具体的な数字を知ることができました。その他農業の担い手の動向や、北海道農業の地域別特色等を詳しく学びました。
- 2日目は、農地取得制度の基礎知識を学びました。自分が思っていたよりも農地の売買や継承は複雑な手続きや制度があり、それを詳しく学ぶことができました。
- 3日目は、実際に自分の営農計画を考え発表するための資料を作成しました。
- 4日目は、作成した資料で自分の考える営農計画を発表しました。他の新規就農者の方々の発表はとても具体的（売上金額など）で、自分も今後しっかりとした営農計画を立てていかなければいけないなと思いました。



地域おこし協力隊全道研修 (2月18日～19日)に参加！

・本研修では、全道の地域おこし協力隊の研修ということで、全道に約700名いる隊員のうち150名ほどの隊員がこの研修会に参加しました。

・1日目は、元地域おこし協力隊の講師の方から「地域おこし協力隊の戦力とポイント」という講演を受講しました。

・講演の「公益性」という題材で自分の為だけの活動だけにはなってしまうよう、砂川市内の農業支援等を通じしっかりと地域に貢献していかなくてはならないと再認識することが出来ました。

・意見交換会では、同じ農業関係の地域おこし協力隊の方々と深く語りあえる場があり、こういった活動をしているのかなどの情報を共有しました。

・交流会では、色々なジャンルで活躍する隊員の方と交流ができました。元カメラマンの方など様々なスキルをもつ方々がいて、前職を活かした活動など、とても今後の活動の参考になりました。

・2日目は、テーマ別のワークショップを行いました。私の班のテーマは効果的な情報発信の手法をテーマに意見を出し合いました。その中で自分の顔写真が写っていたほうがアクセスが伸びるという意見があり、今後参考にして実行していきたいと思います。

・2日間を通じ、これまで協力隊としては一人で活動をしてきて同じ立場の方の話を聞くことが無かったので、情報の共有や相談ができる方々と横の繋がりができ、とても有意義な研修でした。



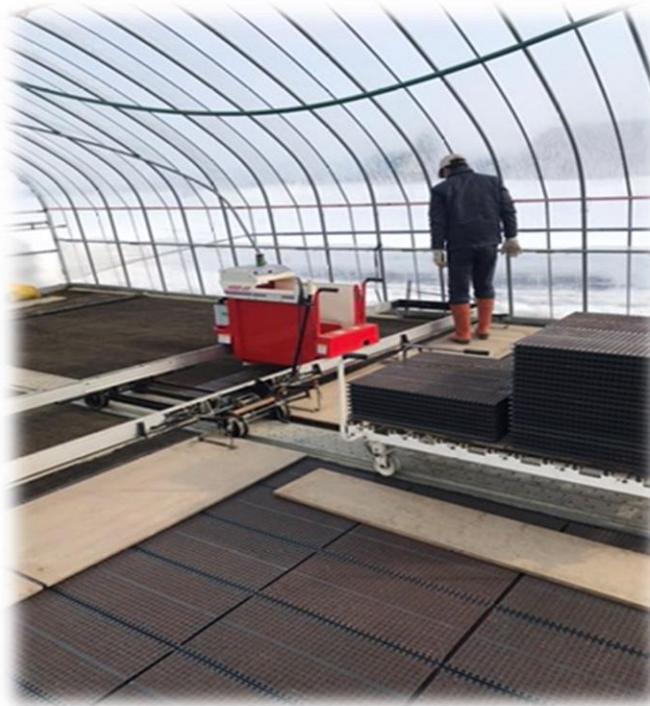
3月度は種まき作業に向けて 育苗ハウスの準備作業！

・育苗ハウスの準備作業では、少しでも水稻の種まき作業が早く出来るように、ビニールを張る前のハウス内に融雪剤を散布し、早い雪解けを促しました。地面が完全に乾いたらビニールが煽られないように、風がない時を見計らってビニール張りの作業を行いました。

岡田さんの元で玉ネギの種まき作業支援！

・岡田さんの元では、玉ネギの種まき作業を支援させていただきました。

・播種作業は、水稻の作業内容とほぼ同じ方法・機械の作業だったので驚きました。ポットを並べる作業では、全自動の機械を使用して、とても効率が良い、水稻の作業でも同じ機械が使えるとのことだったので、自分が就農した際の参考になりました。



～平成30年度を振り返って～

- 砂川市の農作業支援を通じて各作物の様々な特性などを勉強させていただきました。
- 私は、将来的に自分の作った農作物を独自で商品化し、販売していきたいと考えています。その点で保存期間の問題等から「米」が一番商品化しやすいと考えました。また、トラクター等の大型機械で作業する事が多く自分が「楽しいな！」と思うことができたことが理由で、「水稻」をメインとした農業がしたいと決めました！
- 平成30年度は農作業支援、研修、イベントを通じて砂川市はもちろん、道内の様々な農業関係者の方々と後に繋がる交流ができ、これまでに経験したことのない、とても有意義な10か月を過ごすことができました。

